

# 令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書（0歳児）

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 小平市立小川西保育園     |
| 施設所在地 | 小平市小川西町5-13-22 |

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

自然の探求

### <テーマの設定理由>

戸外で目にしたもののや触れたものを不思議そうに見つめたり、感触を味わっている姿をもとに、他の自然物に触れてみたい思いや踏むちぎるなどの活動で変化する自然物の様子や音を感じようとする思いを問いとして設定していく。

## 2. 活動スケジュール

- ・園庭や散歩先などで、自然に触れられる機会を作る。
- ・季節に応じた自然物を集める、触れる、踏む、ちぎることで、関心を抱いたものを観察ケースに入れてみる。
- ・自然物を用いての遊びの広がりを楽しめる空間を作る。
- ・自然物を身近に感じられるように、制作したものなどを室内に飾る。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・お散歩で集めてきたどんぐりや枯れ葉などの自然物
- ・お散歩に出かけた際に触れた自然物を室内に用意する
- ・凍った水たまりを見つけて子供たちが興味を持ったタイミングで、保育者が踏んだり、手に取って触れるように、見せたりしていく
- ・事前に氷を作っておき、園庭遊びの中で氷に触れる機会をつくる。
- ・散歩先で集めた柿の種を観察するための透明な容器。
- ・秋、園庭に広がったいちごの葉を安全な場所に、出来るだけたくさん集めておく。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・お散歩に出かけた際に触れた自然物を室内に用意し保育者と共に触れてみる
- ・自然物を使った装飾を作り、生活の中でも身近に感じる。
- ・凍った水たまりを見つけて子供たちが興味を持ったタイミングで、保育者が踏んだり、手に取って触れるように、見せたりしていくなかで、音や感触を感じる。
- ・散歩先で見つけて触った柿の種の写真を見せつつ、容器に入っているのが柿の種だということを知らせ、みんなで観察をする。
- ・こどもの葉っぱの存在に気が付いた姿から、沢山の葉を見つけてどう感じ、手にするのか。安全な場所でたくさんの葉を用意する中で伸び伸びと手にできるようにする。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・氷に気づいた子は、保育者にちょうだいとアピールをして、氷を渡すと「（つめ）たい」と言葉を発しながら楽しんでた。他にも「ちょうだい」と言って氷をもらいにくる子や氷をトレイに乗せて持ち運んでいる姿が見られた。手が段々と冷たくなってくると、保育者の手に乗せようとする姿もあった。

・外遊びの準備中にベランダにあるイチヨウの葉に気が付いていた。興味のあるものをすぐに楽しみを広げられる環境を用意することで、子どもたち輝いた目があった。保育者とともに体にかけてみたり、握りしめたりする様子を見て、眺めていた子も安心して手を伸ばし、触れられていた。

・容器に入っている柿の種に興味津々で、眺めたり、振って音を鳴らしていた。保育者が柿の写真を指差しながら「これが柿だよ」と伝えたと「かき」と真似して言っている姿があった。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育者の気づき>

・お散歩にて見つけた枯れ葉やどんぐりを集めることを楽しんだものを、保育園に帰ってから、じっくりと触れて感触を味わえた。クラス内といういつもの場所で安心して触れることで葉っぱの崩れる様子やちぎれる様子も体験できたと思う。

・氷の存在に気づき、保育者と一緒に触れることで、初めてさわる子も、抵抗が少なく感触を味わえたのではないかなと思う。氷の割れる様子、触れると冷たいことに気づくと、友達にも渡したりと、楽しさを共有しようとする姿もあった。その後の遊びに取り入れて、友達と氷の様子の変化を楽しんだり、活動を広げられた。

・自然物の写真で、柿のイメージを思い出すなどの自然物との触れ合いを振り返ることで、楽しかったことや感じていることを思い出している様子があり、今後の生活の中で生きるのではないかなと思う。

# 令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書（1歳児）

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 小平市立小川西保育園     |
| 施設所在地 | 小平市小川西町5-13-22 |

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

自然の探求

### <テーマの設定理由>

園庭や散歩先にある自然物にこどもたちが興味を持って発見を楽しむ姿があり、収集した自然物で遊ぶことで、より遊びの幅が広がることを問いとして設定していった。

## 2. 活動スケジュール

- ・園庭や散歩先で落ち葉や木の実に触れ、収集を楽しむ。
- ・色や形のちがいに気づき、興味関心を深めていく。
- ・落ち葉の上に寝転がったり、落ち葉を抱えて放るなど、全身を使って落ち葉遊びを経験する。
- ・落ち葉や木の実を使って、食事に見立てて遊ぶ。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・自然物が豊富な環境の公園に散歩に向かう。収集用の袋を用意する。
- ・落ち葉、どんぐり、木の実、畑で育てている野菜の葉の一部をもらう。
- ・銀杏の落ち葉をコンテナ1つ分集め、こどもたちのよく遊ぶ砂場に用意しておく。
- ・自然物をお皿に盛ってみるなど、普段の食事に見立てる遊びを担当が提案していく。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・育てている野菜の葉と、落ち葉を比較する。
- ・ままごとあそびに拾った自然物を取り入れる。
- ・「きいろ」「あか」「みどり」と一枚ずつ落ち葉をみくらべて色のちがいに気づき言葉に出して周りと共有する姿がある。
- ・お皿に盛ったり、型抜きに刺してみたりして自由に食材に見立てることを楽しむ。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「干切れた」と細かく干切ったり、匂いを嗅いだりする。
- ・サラダやスープといった具体的なイメージをもち、自由に表現することを楽しむ。
- ・葉っぱを型抜きに刺してろうそくに見立ててみると「ケーキだ」と喜ぶ。担当がたんじょうびの歌をうたい、名前を呼ばれると「もういっかい」とごっこ遊びの雰囲気を楽しむ。



## 5. 振り返り

### ＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

葉っぱや木の実を手にとって発見した喜びを保育士や友達と伝え合い、遊びにつなげていく姿があり、こどもたちは宝物を見つけたように目を輝かせていた。

落ち葉という素材がおままごとに登場したことで、遊びの幅がぐんと広がっていった。これからも身近な食事に見立てていくなど、自由に想像をふくらませながらおままごとの世界観を味わえるようにしていきたい。今後も様々な自然物に触れて興味・関心を広げていきたいと思う。

# 令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書（2歳児）

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 小平市立小川西保育園     |
| 施設所在地 | 小平市小川西町5-13-22 |

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

自然の探求

### <テーマの設定理由>

園庭の他に近隣の公園や畑等で季節の自然物にふれる機会が多く、身近な植物や昆虫に興味を持っている。その中で色や大きさ、形などの違いに気付く姿があったため。

## 2. 活動スケジュール

- ・11月頃に散歩先で季節の自然に触れる機会を作り、木の実や葉などを集める。集めた自然物を普段から楽しんでいる砂場でのごっこ遊びや制作に取り入れられるように環境をデザインしていく。
- ・色づいた葉などをイメージできるように絵の具を使って色への関心を広げる。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・環境設定として集めたものを入れられるケースを用意する。
- ・身近な自然物の色などを再現できるような画材、画用紙やカップなどの素材や道具を準備していく。また、形の違いに気付けるよう、スロープや並べられる盆なども用意する。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・散歩先でドングリ拾いを楽しむ中で、自然に興味をもてるようにする。
- ・砂場で山作りやままごとを楽しんでいる中に一つの道具として用意し、遊びの中で取り入れられるようにする。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ドングリの大きさの違いに気付き、担任が大きいドングリを「これはお父さんドングリかな」と言うと「小さいのは赤ちゃんドングリ」「こっちはお姉さんドングリ」と大きさを比べて楽しんでいた。
- ・細長いドングリの中に丸い形のドングリがあることに気付き、「このドングリは何かな」と考える姿があった。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育者の気づき>

・ 普段の遊びに取り入れたことで、拾っていた時よりも大きさや形の違いに敏感に気づく姿があった。お父さんなど身近なものに担任が例えたことで、こども達も自分で例えたり、見立てたりしていた。ドングリからこども一人一人のイメージが広がっていく様子が分かったので、より豊かに表現して楽しんでいけるような関わりをしていきたいと感じた。

・ じっくり観察する楽しさを感じ、他の自然物への興味にも繋がっていった。その中で色や形の違いにも自ら気づき、保育者に伝えようとしていた。こどもの探求心に寄り添うことでさらに興味も深まっていくと気付いた。

# 令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書（3歳児）

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 小平市立小川西保育園     |
| 施設所在地 | 小平市小川西町5-13-22 |

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

自然の探求

### <テーマの設定理由>

園庭遊び中にみつけた虫を捕まえて飼育ケースに入れて様子を見ていたところから虫への興味が広がっている。  
野菜を育てることに興味を持って成長を楽しみにしている。

## 2. 活動スケジュール

- ・スナップエンドウを育てる
- ・虫探しをする

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・スナップエンドウのプランターに水やりをしやすいようにした。（じょうろの用意）
- ・虫探ししやすいようにスコップやカップを出しやすいところに置く。
- ・虫の観察がしやすいように飼育ケースを用意する。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・葉っぱの様子を観察し、なぜ穴が開いているのかを考察していく。
- ・スナップエンドウの葉っぱに穴が空いていることに気づき、虫が食べたと仮定して、土の中にある虫を探す。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「虫さんが食べちゃったんじゃないか。」「先生が食べちゃったんじゃないか。」とイメージしながら考察している。
- ・土を懸命に掘って探そうとしている。他児にも知らせて協力を仰いでいた。
- ・他児にシャベルを渡して一緒にやろうと誘っている。
- ・夢中になって掘り、土を遠くまで飛ばしてしまう。
- ・「いないね」となかなか出てこないことに気づく
- ・幼虫を発見し喜ぶ。「なんの幼虫」と疑問に思ってしまう。
- ・見つけた幼虫を「かわいい」と話す。



## 5. 振り返り

### ＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

・考える力の育ちが促されていく様子がみられた。想像力を豊かにしている。

・冬の季節の中で、虫に出会うことが難しくなっている。図鑑などの活用もしていくと良かったかもしれない。

・葉の穴から虫が連想され、虫探しに夢中になっていた。しかし寒いこともあり、なかなか見つからないことに気づく様子もあった。虫と季節の関係についても考えていくきっかけになるようにしていくといいかもしれない。

発見した幼虫をどうしていきたいか皆で考えていきたい。

# 令和 6 年度とうきょう すくわくプログラム活動報告書（4 歳児）

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 小平市立小川西保育園     |
| 施設所在地 | 小平市小川西町5-13-22 |

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

自然の探求

### <テーマの設定理由>

- ・ 昆虫を探し見つける喜びや興味関心を深める。
- ・ 自分の目で見たり、絵本や図鑑を使用したりしながら昆虫について興味関心を深める。

## 2. 活動スケジュール

- ・ 虫を探す
- ・ 図鑑を見る
- ・ 散歩先での発見を楽しむ

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 図鑑
- ・ 紙
- ・ 色鉛筆
- ・ 散歩バッグ

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・ 虫を探しに散歩に出かけた。
- ・ 虫かごやバケツを使って発見した虫を捕まえて観察したり、様々な虫を図鑑で調べてみたり、図鑑を見て虫の絵を描いたりした。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 図鑑を見て虫の顔の作りをじっくり見ていた。
- ・ 友達と一緒に図鑑をめくり興味を示していた。
- ・ 散歩先の公園で穴を発見し「アリの穴かな？他の虫の穴かな？」「バッタやカマキリは緑で葉っぱと同じ色だから見つけれないのかも」と自分なりに考えたり想像したりしながら探求することを楽しみ、友達と伝え合いながら友達の考えも聞き学びを深めていた。
- ・ 観察や図鑑から虫ってこうなっているんだと新たな気づきや不思議さを知った。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育者の気づき>

虫への興味から草花などの自然物にも興味が広がり、見つけた自然物も図鑑で調べる中で探求心や思考力がたくさん育ってきた。発見したものを「図鑑で調べてみよう」と自ら発信し、喜びや気づいたことを友達や保育士等と伝え合う姿が増えてきた。

# 令和 6 年度とうきょう すくわくプログラム活動報告書（5 歳児）

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 小平市立小川西保育園     |
| 施設所在地 | 小平市小川西町5-13-22 |

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

自然の探求

### <テーマの設定理由>

食育活動を通して取り組んできた中で、種からの生育や植物に関心を持った。周辺環境に自然豊かな場所も多く、植物の生育や組織などにも興味を深めるため。

## 2. 活動スケジュール

- ・ ブロッコリーを育てる。
- ・ 冬の自然に触れる。
- ・ 散歩などを楽しむ。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 虫眼鏡やカメラ、顕微鏡、模造紙などを用意する。
- ・ 畑の野菜や林などの植物を虫眼鏡や顕微鏡で観察したり触ってみたりして探究する。  
また、遊びに取り入れながら身近な植物に触れることを楽しむ。
- ・ 探究活動の様子は、動画や写真撮影で記録する。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・ 霜柱に気付き、踏んでみたり触ってみたりする。冷たさなどの感触に気付く。
- ・ 霜柱や氷ができる不思議さを知り、どうしたら氷ができるか、どこに出来るのかを考える。
- ・ 冬の野菜（ブロッコリー）を育てながら、生長や変化に興味を持つ。

## <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・ 築山に霜柱ができていることに興味を持って踏んだり手で触ってみたりして「冷たい」と感触を喜んでいる。

・ 「ここにもある」「こんなところにも」と築山以外のところにも霜柱があることに気付き、触れて楽しんでいる。「水のない築山からどのように霜柱ができるのだろうね」と問いかけると、「地下水じゃない?」「下水道じゃない?」と言う声が聞かれた。

また、ブロッコリーの水やりをしていた男児が、葉の上に氷ができていることに気が付き、他の子も興味を示していた。

・ 女児が「カップで氷を作ってみたい」と言うので、一緒に準備を始めると、他の子も「やってみたい」と興味を示してやっていた。氷や霜柱は、寒い日にできるが、カップに水を張っていても、できない日もあること、霜柱や氷は、顕微鏡で見えてみると、本当に柱の形をしていたことや、小さな氷の粒が見えることを知った。

また、氷は地下水からできるのではなくて、地面や空気中の水が凍ってできるらしいと、様々なことを見て、調べて知ることができた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育者の気づき>

寒くなってからでき始めた霜柱にこどもたちが興味を持った。触ったり遊びに取り入れたりして興味や関心を広げていたので、一緒に触れる中で、「どのようにできるのだろう?」と問いかけていったところ、こどもたちなりに考えていた。

霜柱ができる過程については調べながら一緒に学んでいくようにした。この時は霜柱と同じようにできる氷がどのようにできるか興味を持てるように問いかけようと思っていたところに、こどもからの発信があったので、次の活動に繋げていった。「日陰に置くと良いよ」と言うこどもからの提案の元、用意したが、翌日見てみると氷はできていなかったという残念な場面もあったが、「またやってみよう」、「ブロッコリーなどの葉の上にはどうしてできたのか」といった更なる疑問や気付きにも繋げていくことができた。

この活動を通して栽培している冬野菜が寒さに強いことなどを知り、より身近に感じる良い機会になった。氷を顕微鏡で見た時に、細かい氷が集まってできたものだと知った。他の自然物も、どのようにできているのか観察してみたい、という意欲が見られたので、様々な物を見て、発見を楽しむことができた。